



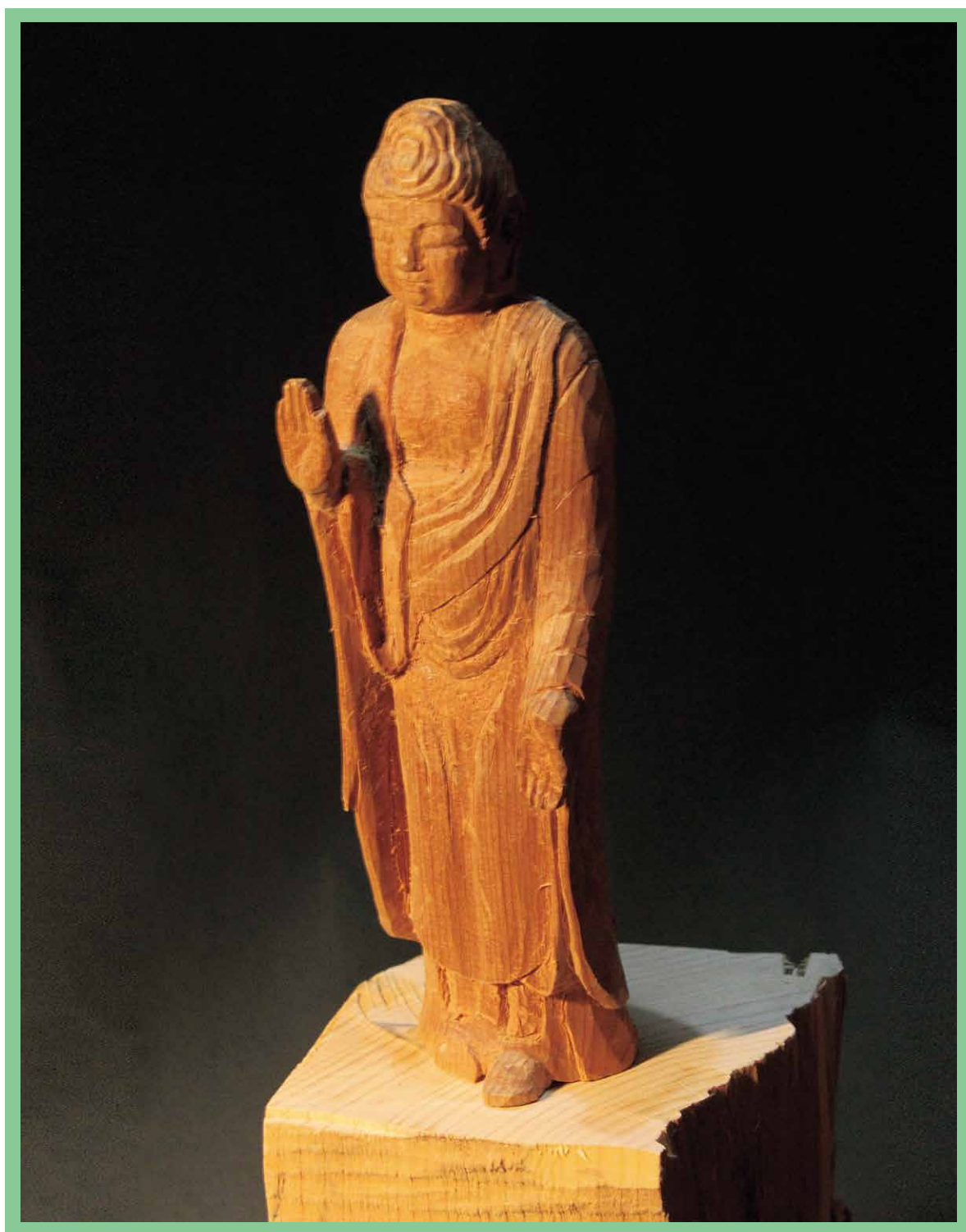
Minato Silver News



みなとシルバーニュース

2025
No.
108

令和7年5月13日発行／会員数1,940人（令和7年4月1日現在）



彫刻／大野 征雄 [4670]



間伐材の利用を促進した
記念品「ひのきの楯」

☆「きらきらプラザ新橋」の会員7名に 芝地区総合支所から 感謝状が贈呈されました☆

区の複合施設『きらきらプラザ新橋』では、6名の会員が1日2交替制で受付管理業務に従事しています。

昨年7月下旬、管理者である芝地区総合支所管理課からセンター事務局に連絡があり、清掃業務を委託していた業者に不測の事態が起きたため施設の清掃ができなくなったこと、そして、次の業者が決まるまで、臨時の清掃員を大至急手配して欲しいと告げられました。

「幸いにも、清掃業務を第一希望で待機中の石田さんがいらしたのです。」そう笑顔で話すのは事務局の担当者。「自宅から少し遠いけれど、1か月ほどの暫定的な仕事なのでぜひご協力を、と口説かれました。実際には3か月になってしまいましたが(笑)。“困ったときは、お互いさま”で引き受けました。」と振り返った石田さん。

石田さんが担当したのは「区民協働スペース」の部屋と共用部分の清掃です。1日4時間、週3回の条件で8月初旬からスタートしました。そんな石田さんを、リーダーの澤田さんが中心となってサポートしました。「前の清掃員が、どのような手順で何をしていたのか把握していました。お掃除の経験者である石田さんには、主に館内のルートや限られた時間での作業効率などをアドバイスさせていただきました。石田さんがオフのときは、私たち6名が汚れた机を拭いたり、ごみ出しやトイレの消耗品を補充したり・・・協働スペースのみならず、乳幼児の一時預かり・子育てひろばのあっぱい、ご近所ラボなどが同じ建物内にありますので、さまざまな利用者の皆さんが快適に使っていただけるよう汗をかきました。まさに、センターの基本理念『共働・共助』を実践した3か月でした。」と語ってくれた澤田さんは、ほっとした表情のなかにちょっぴり晴れがましさをみせていました。

地域に貢献した7名の皆さん、おめでとうございます。



今別府 千恵子
[6617]



澤田 佳代子
[5639]



石田 美恵子
[7661]



山中 勇司
[7452]



月村 登喜子
[7667]



川村 幸子
[6556]



令和7年3月25日の贈呈式



小峰 由紀
[6609]



受付・清掃業務に尽力したことへの感謝状



趣味を活かして モチベーションアップ ～小物グループあじさい～



1994年にソーインググループとして発足し、縫い物を製作・販売してきましたが、2011年に自由な発想のもとに幅を広げて再スタート。手芸を趣味とする会員が参加できる現在の「小物グループあじさい」になりました。袋物、エプロン、アクセサリ、編み物、紐細工、マグネット、籐工芸など多様な分野の作品があります。センターには皆さんが購入できる小物ワゴンが常設されています。また、毎年PRをかねて区民まつりや各区民センター、いきいきプラザ、フェスティバルーんなどで展示即売会を行っています。グループとしての活動は、各イベント前の「参加準備会」とイベント後の「反省会」の全体会議です。今後はさらに広報活動に力を入れますので、手芸が趣味の皆さん、自由な時間を使って楽しみながら家で作品を作り、販売することで喜んでもらえ、そのうえポケットマネーも増える・・・このグループに参加しませんか。

リーダー 砂辺 好子 [4644]

ぬいぐるみは人気の

母が洋裁教室を開いていたのでいつの間にか洋裁の技が身についた、まさに“門前の小僧”です。センターの会員になってすぐにソーインググループに入り、1年後には友人からの誘いもあって、小物グループに参加しました。

以前は作品を友人たちにプレゼントしていましたが、今は販売ができますので、やりがいがあり充実した生活を送っています。

洋裁が好きなのでポシェット、トートバッグ、人形、ぬいぐるみなどを中心に創っています。孫には可愛いぬいぐるみをたくさん創ってあげたので、とても喜ばれました。

ただ、(孫はさておき)ぬいぐるみや人形は創っているうちに思い入れが強くなって、手放すのが惜しくなることもあります(笑)



最近ではスマホ用のポシェットが大好評。毎年クリスマスシーズンにはツリーやオーナメント、ティディベアに人気が集まります。

思い出に残っているのは、かつて特別な注文に応じたときのこと。

母親の形見の長い真珠のネックレスを3人の娘さんの希望で3等分し、3つのバッグを創って、それぞれに真珠を取り付けました。3人とも感謝してくれました。

作品を創ることで健康になりますし、健康でないと創れませんので、これからも体に気を付けながら作品創りを続けてまいります。



前野 美代子
[6950]

さらにファッションセンスを磨く！

センターの会員になってしばらくは公園清掃や施設管理業務をしていましたが、友人に勧められて小物グループのメンバーになりました。

若い頃に手芸関係の学校に通い、編み物が上手な母の影響もあって、ずっと手芸を趣味にしていました。

麻布十番のギャラリーで、神戸から上京してくる先生の織機によるビーズ作り教室で学んだり、吉祥寺でフェルトを使ったブローチ作りなどを勉強しているうちに、ビーズを素材とした独自のアクセサリ作りが得意になりました。

細かい作業なので手間がかかりますが、自分の作品が売れると嬉しくなります。購入された方々から、「次回の



新作が待ち遠しいわ」などと声を掛けられると、一段と励みになります。

『あじさい』での販売は低廉なものが求められていますが、もう少し高額なものを置いて反響をみて

もよいのではないのでしょうか。また、センターでのワゴン販売のアピールも、もっとお願いしたいと思っています。

最近は足の具合が思わしくないので、イベントでのお手伝いができずに心苦しいのですが、これからも本や雑誌、ショップなどでセンスのよい作品を参考にしながらオリジナル作品作りにチャレンジし、グループの発展に貢献するつもりです。



橋本 雅江
[5494]

学校施設開放管理業務

小学校や中学校の校庭や体育館を 区民のみなさんに開放しています！ ～わたしたちと一緒に働きませんか？～

1班 二足の草鞋を履いています

管理員を3年経験したあと調整員になり、かれこれ6年経ちます。考えてみると、ずいぶん長い間学校施設開放管理業務に携わってきたものです。担当の1班は南北に長い地域割りとなっているため、必ずしも管理員さんの自宅から近い学校に就業できるとは限らないのが、シフト作成時の頭痛の種です。

センターでは、ボランティアコーラスグループ「野ばらの会」にも所属しています。月に2回の練習に加えて、高齢者在宅サービスセンターへの訪問や、各班のちいこみでの歌唱活動にも積極的に参加。そんな時にはピアノ伴奏を務めたり、65歳から趣味で続けているバイオリンを演奏したり・・・仕事だけではなく趣味の活動もできることは、会員としての楽しみでもあります。

さて、調整員にとって最も重要なのが現場での問題解決能力。サラリーマン時代に培った営業力や交渉力が大いに役立っていると感じます。そういった意味でやりがいを感じ、また、生まれ育った港区で意義ある仕事ができる喜びもあります。それがこの仕事を長く続けてこられた理由だと思います。ただ、そろそろ後進に道を譲りたいという気持ちも出てきました。現在管理員をされている会員の中から、調整員をやりたいと手を挙げる方が現れるのを期待しています。

2班 生活のリズムですよ！

定年退職してからもう10年、以来ずっとこの学校施設開放管理業務に携っています。きっかけは、現役時代はいっさい地元とのつながりがなかったのが、退職後はぜひとも地元との接点が欲しかったからです。地元の子どもたちや学校の先生、そしてバレーボールやバスケットボール、あるいはサッカーや水泳などスポーツをしにくる区民や区内で働いているみなさんたちともコミュニケーションができる・・・自分にピッタリだし今や生活にリズムができてありがたいことだと感じています。

現在は月に調整員として9日間、管理員として4～5日従事しています。平日は夕方からですが、土日は朝から夜までの2交替制になりますので、たいへんなのは毎月のシフトを組むことですかね。

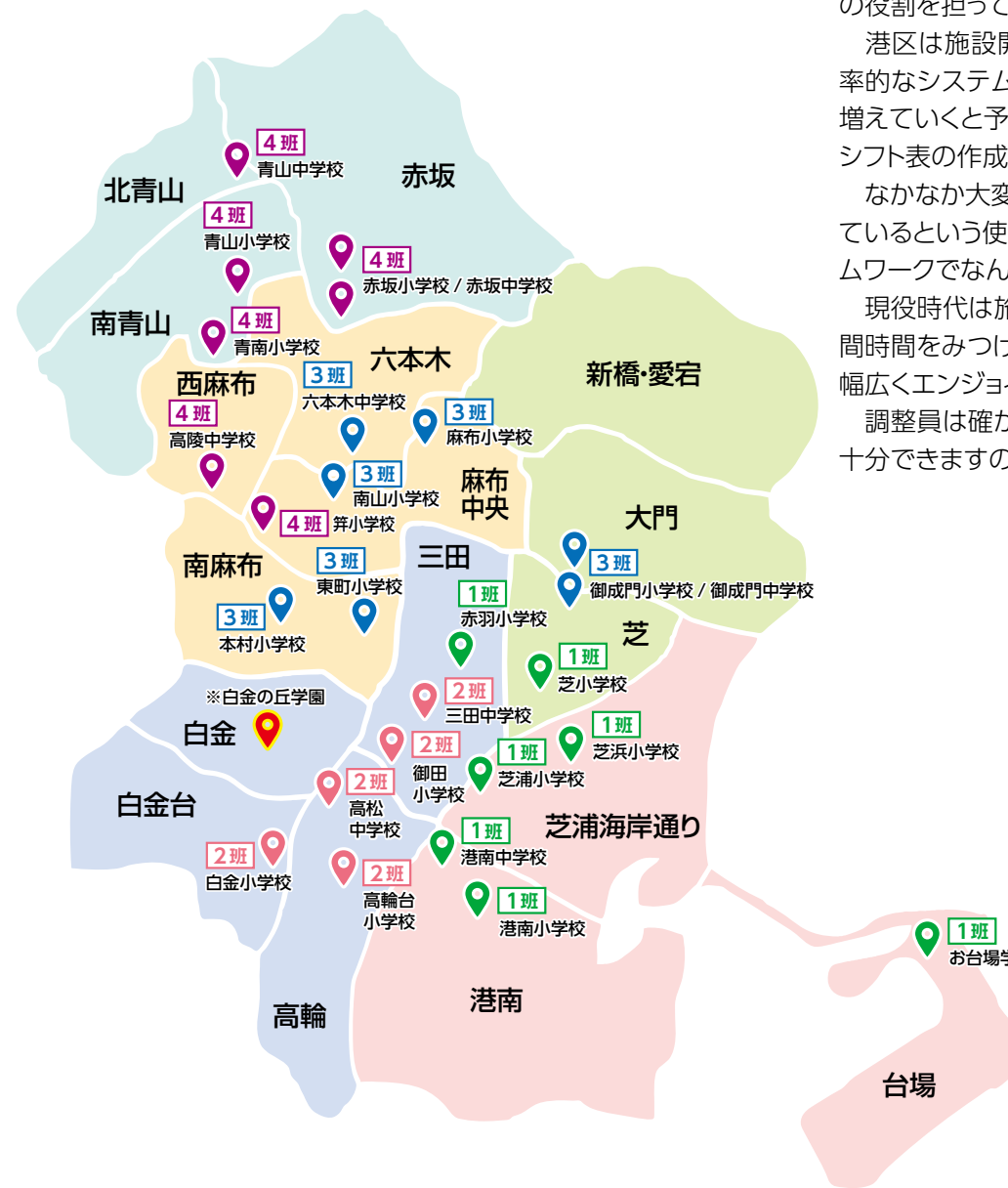
業務以外では学生時代の仲間たちとまだよく付き合っています。ゴルフはだいぶご無沙汰になりましたが、いまハマっているのが写真俳句というものです。本来なら俳句をつくってそれに写真を添えるというのですが、私は逆に写真を撮ってそれに俳句を付けるというもので、現在私の愉しみになっています。



町野 重光
[6107]



沖 庸介
[5775]



※調整員の就業拠点

港区内の公立小学校や中学校は子どもたちだけの場ではありません。授業が終わったあとは区民のみなさんにも使っていただけるように考えられています。

例えば、校庭や体育館で球技やダンスを楽しんだり・・・とは言うものの学校の先生に遅くまでいていただくわけにはいきません。そこで、平日なら夕方から、休日なら朝から、その受付管理のために「学校施設開放管理業務」を任されているのが港区シルバー人材センターの会員です。

地域のためになる！自分のためになる！そんなお仕事を今回ご紹介します。

この業務は27校を地域によって4班に分け、そこで約100名の会員が管理員として就業しています。そしてスケジュール調整や管理員をまとめているのが、今回ご紹介する4人の調整員です。

3班 意義ある仕事に使命感+達成感

退職後に急にやる事がなくなると不安になるので、センターの会員になりました。早々に管理員となり、その後、センターから調整員にならないかとの誘いがあって、現在に至っています。私の担当は第3班、同時に「統括調整員」の役割を担っています。

港区は施設開放をさらに拡充するために、IT化を強化したPC利用による効率的なシステムを近々導入の予定ですが、現場にいる私たちの責任・仕事量は増えていくと予想されます。まして、調整員ともなれば、自宅にいても管理員のシフト表の作成やら、学校やセンターからの様々な電話対応などがあります。

なかなか大変な業務ですが、区民に限らず広く多くの利用者のために学校施設開放を円滑に進めているという使命感・達成感があります。何かと忙しい毎日でも、管理員の協力や、調整員とのチームワークでなんとか上手にこなすことができるのは、実にありがたいことです。

現役時代は旅行や読書を楽しんでいましたが、最近は専ら映画鑑賞が気分転換となりました。隙間時間をみつけては映画館へ行ったり、インターネットを活用して話題の最新作から昔の名画まで、幅広くエンジョイしています。

調整員は確かに多忙です。しかし、とても意義のある仕事です。また、管理員の経験がなくとも十分できますので、会員の皆さんにもぜひ挑戦していただきたいと思います。



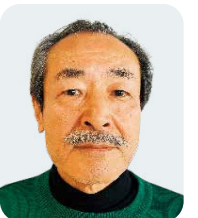
山下 良蔵
[5328]

4班 21時30分 おつかれさまでした。

生まれも育ちも港区、ずっと同じ所に住んでいます。精密機械の会社に就職し、セールスエンジニアとして定年退職を迎えるまで同じ会社で働いていました。営業職でしたから“井の中の蛙”ではありませんが、センターの会員として活動することで世界を広げたいと願って3年前に入会しました。

初就業が「管理員」。やっと仕事を覚えた1か月後、「調整員が体調を崩したので、あとを引き受けて欲しい」と頼まれ、気軽にOKしたものの・・・わずか2週間の研修で「調整員」になってしまいました。当初はわからないことだらけで戸惑うことばかり。先輩の調整員と協力的な管理員の皆さんのおかげで軌道に乗せることができました。趣味の海釣りやゴルフを楽しむゆとりも生まれました。

忙しいけれど、『人とのふれあい、新しい経験、そして達成感』この3つがあるからこそ、続けていられるのだと思います。管理員の枠が埋まらないときには“奥の手”を使います。妻に入会を勧め、自分の担当する学校のすべてにピンチヒッターとして就業できるよう漕ぎ着けました。という訳で、そろそろまとまった休暇を取り、家族サービスをしなくてはと思案中。管理員が増えるのを心待ちにしています！



藤平 一雄
[7411]

みなとふれあい館 カルチャー講座のご紹介

センターが運営し、会員が講師をつとめる「みなとふれあい館」では、さまざまな講座が開催されています。皆さんに興味を持っていただける講座の数々を順次ご紹介します。

語りの表現講座



金曜日(全6回)
15:30～17:30



伊藤 豪
[4500]

音に敏感になろう!

朗読するということは、作品の活字を読むことではありません。作品を自分の思いそのままに伝えることです。初めは難しいことですが、何回も繰り返すことで身につきます。先ず私の講座では発声訓練を全員で行います。その後ひとりひとりに自分の持ってきた小説やエッセイ、作文などを朗読してもらいます。ただ読むのではなく自分が選んできた素材を自分の気持ちをいっぱい込めて伝えるのです。私は基本的なことを言っているだけで技術的なことを教えたりしません。生活の中の音を大切に、心と心で共有しあう…本当は見たものを読むのではなく伝えたいことを共有しあうことが重要だと思っています。

私は早稲田の演劇科を出て劇団民芸に入りました。そこに10数年いて、現在も続いている劇団アドックをつくりました。この「語りの表現講座」を始めたのは、ちょうど東日本大震災が起きた前の年で、センターの方からなにか演劇とか朗読とかの講座が開けないかとすすめられたからです。その後10数年も経ちましたが、今や受講生たちに教えられ、感動する場になってきていると感じます。幸せなセミナーです。

取材をさせていただいた側からひとこと…この日、講座には最初から2時間ほど参加させていただき、4人の受講生の方の「語り」を聞かせていただきました。どなたの朗読も気持ちがいっばいにこもっていて、思わず頬が緩んでしまったり、涙が出そうになる時もありました。本当にいい体験をさせていただきました。



女性のためのサルサ・ダンス



A月曜日(全12回) 10:30～12:00
B木曜日(全12回) 10:30～12:00
C月曜日(全12回) 13:00～14:30



宮澤 緑
[6469]

自由と開放感

今年で8年目になる「女性のためのサルサ・ダンス」。私が始めたのは25年ほど前でしょうか、独学でした。キューバを舞台にした映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」が評判となり、六本木あたりには次々とサルサ・ダンス・クラブが生まれた頃です。体育系の大学を出てフィットネスクラブでダンスインストラクターをしていたのですが、そんな時にサルサに出会いシフトしていったのです。

私のレッスンでは最初の30分間は準備のためのエクササイズ。次の30分はサルサ・ダンスの基本的な動き方のソロワークを習得。最後の30分で男性役となる私ひとりひとりの生徒さんとのマンツーマンのダンス。みなさん楽しそうに踊っていらっしゃるのがうれしいです。

サルサ・ダンスは基本的にはペアダンス。活気のあるリズムカルな動きが特徴的で、今は世界中で楽しめます。魅力はなんといっても音楽とピッタリ合わせるシンクロ感。自由な動きはまさしくアドリブでジャズと同じような感覚です。自由にノリノリ! 開放感いっぱい! 楽しまなければ意味がない! と思います。また、かなりの運動量になりますのでシルバー世代にとっても身体によく、楽しさもありコミュニケーションにも最高です。からだがかたいと感じている方、体力が落ちている方、ストレスが多いと思っている方…ぜひ、いかがですか?



委員会紹介

衛生委員会

委員長 坂本 徹

センターでは、派遣就業会員の健康の保持増進を図るため、令和元年10月に衛生委員会(公益財団法人東京しごと財団港派遣事業所衛生委員会)を設置しました。

派遣事業は、平成28年4月に開始した事業のため認知度が低いと思われるので、委員会活動とともに派遣事業についてご紹介いたします。

○派遣事業とは

派遣事業では、東京しごと財団が派遣元事業主となり、派遣先と派遣契約を締結します。センターは港派遣事業所として派遣事業に係る事務を行っており、就業を希望する会員は、東京しごと財団と雇用契約を締結し、派遣先の指揮命令を受けて就業することとなります。仕事が終了すると、東京しごと財団から派遣就業会員に賃金(配分金ではありません)が支払われます。

現在、センターでは自転車等駐車場管理業務、いきいきプラザや区民センターなどの受付管理業務、期日前投票選挙事務、各種資格試験の試験監督業務、一般事務や伝票整理事務などの仕事を提供しています。令和5年度は、センター会員の32%に当たる605人が派遣就業会員の登録をしており、このうち350人がこれらの仕事に就業されました。

○衛生委員会では

委員会は、派遣事業所長(坂本徹事務局長)が委員長となり、衛生管理者(堀吉光事務局長代理)、派遣就業会員(山岸知子会員、大村隆二会員、加藤敬子会員)、産業医(那須かほり医師)の合計6人で構成され、河村岳郎次長が衛生委員会事務局として庶務を担当しています。

委員会は、8月も含め月1回(年間12回)開催しており、①派遣事業の現状について事務局からの報告、②就業内容や職場環境など派遣就業会員からの報告が議題となります。

①派遣事業の現状についてでは、事務局から月末時点での派遣就業先の一覧表が示され前月からの変更点を中心に説明を受けます。

②派遣就業会員からの報告では、毎回1人の派遣就業会員から就業内容や職場環境などについての報告をいただき、職場に危険が存在していないか、良好な職場環境が整備されているかなどの確認をしています。

これまで、職場環境は良好で危険なども存在しておらず、派遣先職員とのコミュニケーションも良好であるとの報告がほとんどですが、もし職場環境の改善が必要な状況が確認された場合は、産業医委員の助言などを参考に事務局が派遣先と協議し改善を図ります。

○派遣就業会員の健康の保持増進のために

派遣事業は着実に拡大しており、令和5年度の請負契約と派遣契約の構成比は8:2となり、派遣契約金額は都内で派遣事業を実施している47センターの中で第2位となっています。

また、令和6年度上半期の実績では令和5年度に対し87%増加しており、請負契約と派遣契約の構成比は7:3となりました。令和6年度は、いきいきプラザや区民センターの業務が請負から派遣に移行したことなどが大幅に増加した要因となっていますが、今後も派遣事業は着実に拡大していくと見込んでいます。

衛生委員会といたしましては、増加していく派遣就業会員の健康の保持増進を図るための活動に、これからもう一丸となって取り組んでまいります。

派遣就業会員の皆様におかれましては、衛生委員会での派遣先職場環境の報告にご協力をお願いいたします。



上段 大村 隆二、加藤 敬子、山岸 知子、河村 岳郎
下段 那須 かほり、坂本 徹、(欠席)堀 吉光 敬称略

雑記帳



また行くから待ってね。
(事務局 芦野)

どこまでも透明で青く輝く海とそ
の海を渡って吹いてくる乾いた風が
心地よくゆったりと時間が流れるホ
スピタリティ溢れる常夏のリゾート
アイランド「ハワイ」が大好きです。
初めての旅行は叔母と2人旅。じ
つに豪快な叔母で、めったに肉は食
べないのにハワイに来ると毎日分厚
いステーキとロブスターでワイン1
本は軽く空けてしまうような人。そ
の叔母に美味しい食事とお酒と買い
物を楽しませてもらった。
そのち家族で行くようになった
ハワイの過ごし方は朝から海に行く
健康的(?)な過ごし方に変わった。
車でサーフィンの聖地であるノー
スショアや白い砂浜がどこまでも続
くカイルアや名もないビーチへ行き
日中はほとんど海の中で遊ぶ。流
石にそれだけ遊ぶとご飯をレスト
ランへ食べに行く気力がなくなりコ
ンドミニアムで自炊中心。「旅行に行
つてまで自炊か」と当初思っていた
が現地のスーパーマーケットで買い
物する楽しさというたら。とにかく
売っている商品の見せ方が違う。果
物は山盛りでなにしろ色鮮やか。肉
や魚も対面でほしい分だけ買うスタ
イル。種類が多くてテーマパークに
いるようでワクワクが止まらない。
その楽しさを知ってからは到着後
スーパーマーケットに直行。お酒売
り場でビールをケース買い、ワイン
も買ったからおつまみにマグロやサ
イモンのボケを買って旅行スタート。
すっかりリフレッシュして帰国したと
思ってもすぐにまた戻りたいなと思
わせてくれる場所
ハワイ。
また行くから待
ってね。

アロ～ハ!!

表紙を語る



大野 征雄
[4670]

仏像の魅力

～写真撮影から彫刻へ～



20代の頃から、京都や奈良の寺院を訪ねて仏像の写真撮ることが好きでした。ところが写真を撮ろうと訪れても、寺院や仏像によっては撮影禁止という場合も多々あります。そんな時はスケッチをしていました。要するに、仏像が好きだったのですね…定年退職後、少し時間的な余裕ができたところで、自分でも彫れるのではないかと思ったのが、仏像彫刻を始めたきっかけです。

仏像彫刻の第一段階は、まず作りたい仏像の下絵を描くことです。次に、その下絵から設計図を描き起こします。設計図には、正面、背面だけでなく、左右の側面、真上、真下の図も必要です。ミリ単位で、狂いの出ないように描かなければなりません。



これらの図面が完成したところでコピーを取り、角材の各面に貼り付けると、いよいよ彫りの始まりです。

材料の角材は、木曽の檜で、伐採後5年、6寸角2間半のもの。これを切り分けて使用します。若い木では狂いが出ますので、入手が非常に難しく、材木店で一本単位で購入しています。最近の悩みは材料の値上がりです。始めた頃に比べ6倍くらいの値段になってしまいました。困ったものです。



私が彫るのは高さ15センチくらいの小ぶりの仏像ですから、大きな木材を小さく切断して使います。当然、細かな作業が必要になりますし、それなりの道具を揃える必要もあります。彫刻刀はほとんどが特注で、研ぎは自分でやっています。というより、自分で研げなければ思うように彫ることはできません。



七福神、色々な聖観音、大黒天、四天王など、さまざまな仏像を彫らせていただいておりますが、自分としては大黒天が一番気に入っています。お顔のふくよかな感じを表現するのはなかなか難しいのですが、その分、出来上がった時の満足感も高まります。

一体の仏像を彫り上げるのに、早くても3ヶ月は

かかります。これまでに約30体ほどの仏像を彫りましたが、手元に残っているものはわずかです。家に来た人に「いいねえ、欲しいなあ」と言われると、つつい差し上げてしまっ

たり(笑)

私にとって、仏像を彫ることは趣味の手遊びではなく、仏様や自分の心と向き合うことです。夜更けに心を整えて彫刻刀を握る…そんな時間をとっても大切にしています。

編集後記

▼就業時に海外からの観光客が多い名所旧跡やホテルの前を通るが、スマホが普及してからは道を尋ねられることが皆無となった。親切そうにみえたのか、英語が通じそうな様子だったのか、それとも単に若かったからか：昔は道案内を求められる頻度が高かったのに。▼英語といえは、若い頃勤めていた会社には、福利厚生の一環としてアフターファイブに英会話のクラスがあった。先生は緑がかった大きな瞳が印象的なアメリカ人。洗練された雰囲気、豊富な知識と真摯な態度で人気があり、年齢も近く、レッスンはいつも楽しかった。▼時は流れ、紆余曲折を経て彼女が長崎に居を移してからは、年賀状で数行のやりとりをする間柄である。▼今年のメッセージには、My body is falling apart (?) 調べたら「身体にガタがきている」の意味だった。このあとbutと続き以下和訳します「心は今も若いまま。そして、これが一番大切なことだと思います。」S先生、Me too. (中山)

定時総会日程のお知らせ

日時…令和7年6月24日(火)
13時30分
場所…赤坂区民ホール
※詳細は事務局日より5月までご確認ください。